

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんこんにちは。自由民主党、政策研究クラブの吉川でございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまから一般質問を始めさせていただきますと思います。

今回の質問につきましては、下水道事業、雇用促進住宅、コミュニティFM、高橋駅周辺整備、小・中学校の室内環境整備、庁舎改築、図書館の利用サービス向上、以上7項目について順に追って展開をしていきたいと思っております。

まず、1点目の下水道事業でございますが、この下水道事業は、市民の皆さんにとって安全、そして快適な生活を実現していくため、必要不可欠な事業でございます。これは武雄市が責任を持って長期的に安定したサービスを展開していく必要があるわけでございますが、そういう観点から今回質問をさせていただきたいと思っております。

現在、武雄市では年間12億円ほどの財源を下水道事業に投下をして、推進を図っていただいておりますけれども、その中でも非常に武雄の中では重要な位置づけの事業であります。中身を見ますと、農業集落排水事業、これにつきましては、約3,100世帯の方がカバーできております。現在、担当部のほうでは、その接続率の向上に努めていただいている。そしてまた、公共下水道については、4年前に工事に着手した新しい事業でございます。それから、個別浄化槽、これについては市町村型が2年前から事業展開をされております。これも新しい事業でございます。

そういう状況の中で、今回はこの下水道事業の財政的な点から質問をさせていただきたいというふうに思います。

これは下水道事業の平成22年度の決算からの資料でございます。農排、公共、浄化槽、これを支出と収入という形で棒グラフにまとめたものでございます。農排につきまして支出を見ますと、公債費が5億2,000万円、これは建設工事が終わりました、そのときの起債の償還が今始まっているということでございます。この財源としては収入のほうの一般会計からの繰り入れ5億8,000万円です。維持管理費につきましては、1億4,000万円、これを穴埋めする使用料収入は1億円、公共下水道が今事業を開始して、——スタートしたばかりでありますけれども、年間2億3,000万円、そして市町村型の合併浄化槽が1億5,000万円という状況にあるわけでございます。その中で、今回は汚水処理の収支について注目してみたいというふうに思います。農業集落排水の維持管理費が1億5,097万円ですね、それから、使用料収入が1億588万円、これを差し引きますと、赤字額が4,509万円というふうになっております。この赤字額につきましては、一般会計からの補てんで今現在対応をされている状況にあるわけでありまして、この4,509万円に対して、事業を展開されている下水道当局としてどのような認識をされているのか、まずお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

農排の収支でございますが、今議員御指摘のとおり、4,500万円程度の損失と申しますか、収支が取れておりません。その分を今一般会計から補てんしているわけでございます。回収率にいたしますと70%ということでございますが、実は本来であるならば収支均衡するのがいいわけでございますけれども、この使用料の料金体系が今度見直しをせんといかんというふうに考えております。これにつきましては、条例に基づきまして5年後に見直しをするということになっておりますので、今後、具体的にシミュレーション等を行いながら、検討をして議員の皆様にお示ししたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ここの汚水処理については、やはり汚水私費の原則があるんですね。というのは、日常生活の中で排出されたものについては、それは使用料によって補うのが大原則だということがあるわけですね。そういう状況の中で、この一般会計からの繰り入れを毎年毎年続けている状況に対して、これはちょっと財政当局のほうにお伺いしたいと思いますけれども、政策部長ですかね、どのようにこの補てんを考えられているのか。

ここに回収率70%とありますけれども、これがやっぱり90%以上ぐらいにならないと受益者負担の原則に沿っているとは言えないんですね。こういう状態がいつまでも続いたらだめだというふうに思うわけでありまして、この点、財政当局としてどのように考えられるのかお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

どこまで公が負担するかという議論は別にして、単純にこのまま赤字額がふえ続けるというふうになったら、財政上、運営上の課題の一つになるというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

そういうことで、ぜひ資本費の建設費については、やはり公的な負担、それはもちろんのことだというふうに思います。ただ、一般家庭から出される排出物に対するそういう運搬処理費というのは、やはり排出者が負担をするというのは大原則ですので、そういったところをやはり市当局がきっちりと念頭に置いてやっていただきたいというふうに思います。

それからもう1つは、ここの基本料金ですね、武雄市の基本料金は10立方メートルが基本であります。農業集落排水が1,600円、公共下水道が2,000円、個別浄化槽が2,000円というふうなことで、ここで基本料金400円の格差が出ているんですね。同じ武雄市民でありながら、片方は1,600円、片方は2,000円といった状態がいまだに続いている。もう合併して7年を迎える中で、こういったところの市民の不公平感、こういったものはやはり是正をしていく時期にもう来ているというふうに思っておりますけれども、この点についてはどうですか。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

議員御指摘のとおりでございます。その不均衡について今後どのように対処していくのかということだと思います。住民負担のあり方、シミュレーション等も行いながらですね、じゃあ、望ましい負担のあり方はどうなのかということをお求めていきたいというふうに考えております。

先ほど申しましたように、条例によりまして見直すということになっておりますので、今後、見直しの研究を行いながら議員の皆さん方に示していきたいというふうに考えておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ここでちょっと注目される場所は——ごめんなさい、ここですね、接続率。公共下水道はまだ始まって5年目というふうなことで、接続率が24.6%というのは、まあ、理解できるんですけども、接続率が24%しかないのに、汚水処理の回収率90%まで上がっている。ということは、この2,000円の設定そのものも若干高目に設定されている傾向があるんじゃないか。逆にこっちの農業集落排水ですね、こちらのほうは接続率、頑張っていただいて72.6%まで上がっています。しかし、回収率は70%にとどまっている。一般会計からの負担をしているというふうなことで、若干ここはやはり料金設置が低いんじゃないかというふうなことを感じるわけでありまして。そういったことで、全体の財政、それから個々の基本料金の統一化、これぜひ市民に不公平感がないように提案をしていただきたいというふうに思っております。これ市長はいかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱりこうやって数字が出ると非常にわかりやすいなと思いますよね。ですので、ちょっと我々は我々で先ほど部長が申し上げたとおり、庁内の検討委員会をつくっています。こ

これは議員御案内のとおり、5年前も大激論になりました。ですので、ぜひ私からのお願いは、議会の中でもこれは議論をしてほしい。要するに、安いのがいいじゃなくて、持続可能にどういうふうにこの料金を持っていくのかといったことも含めて、あわせて議論を開始していただきたい。それで私ども執行部と議会と、またすり合わせを十分させていただきたいというふうには思っております。

いずれにしても、5年前、農集の接続率が物すごく低かったわけですね。これがもう20%以上上がっているというのは杉原議長を初めとする山内町の保守系の議員さんの皆さんのおかげだと思っておりますので、これは感謝を申し上げたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

議会のほうも重々考えております。やはり根本は事業主体である下水道課ですね、ここがしっかりして情報を出していただかなければ協議にならんわけですね、ぜひお願いをしたいと思います。

それともう1点、この公共下水道の24.6%の接続率、この数字については若干低いんではないかなというふうに思うわけでありませけれども、この辺どのように認識されているのか。また、今後この接続率をどのように上げていかれるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も低いと思っています。これは2つあって、今後の方向なんですけれども、1つは農集の料金と個別浄化槽の料金との均衡の観点と、もう1つは、この2,000円というのは議員も話がありましたけど、本当にこれ適切かどうかということも含めて、庁内の検討委員会でしっかり議論をしていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

よろしくお願いたします。

それでは次に、雇用促進住宅について質問をさせていただきたいと思っております。

この雇用促進住宅におきましては、平成6年に竣工され築18年が今経過しております。集合住宅ではまだ18年ということで非常に新しい部類の住宅でございますけれども、戸数が80戸というふうなことで、ちょうど5年ほど前ですね、雇用促進機構のほうから武雄市のほうに譲渡の話があったというふうに思っております。その後、経済状況、雇用状況が悪化をいたしまして、それが一たん棚上げになったわけですね。その後、機構のほうから、今雇用

支援機構となっていますけれども、そちらの支援機構のほうからの話、どのようなことが来ているのか。それとあわせて、雇用促進住宅の入居状況等についてお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

お答えします。

まず、入居率でございますが、80戸の中で現在48戸が入居されております。率としましては約60%でございます。

状況でございますけど、平成19年6月に機構より平成33年度までにすべての雇用促進住宅の譲渡または廃止を行うと、こういうことを説明されております。その後、経済状況の変化で21年の3月に回答期限の延長というのが伝えられておりまして、ことしになりまして24年の4月、再度意向調査ということが再開をされたという状況でございます。

今後の機構側の考え方でございますが、入居者の対応等も考えると、平成30年度までに方針や手続を完了したいと、こういう意向でございます。

経緯については以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

機構としては30年までに判断したいということですが、ことしの4月ですか、機構のほうから再度お話があったということですね。それに対する回答は平成30年でいいんですか。回答期限とかあるんですか。いつまでにするというのを教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

4月に意向調査というのが開始されましたが、その意向についての回答については6月29日までの回答期限というふうになってございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

この譲渡の回答期限が今月いっぱいということですね、6月29日は。そういうことで、この雇用促進住宅をちょっと見てみますと、雇用促進住宅のちょうど目の前には、昨年10月にオープンいたしました武雄北方インター工業団地、これが18ヘクタールという壮大な工業団地ができたわけでありまして。ぜひこの工業団地、企業誘致をする上でのバックグラウンドとしてこの住宅を使っていただきたいというふうに思っております。企業さんがやはり進出す

る上ではこういった安価な工業団地、広大な工業団地、そして、交通アクセスがよくて、やはりこういった住宅政策も整っているところなんですね。

それともう1つは、学校、病院、こういったものがやはり充実したところにしか企業は来ないわけです。そういう条件の一つとして、ぜひこの住宅政策、先ほど60%の入居率と言われましたけれども、4割があきがあるんですね。ぜひ一つのコミュニティーができますので、それもバックグラウンドとして活用をしていただきたいというふうに思いますし、これまで雇用促進住宅、平成6年にできてから定住人口増加に非常に貢献をしてきております。そして、ここに住まわれた方がどうされているかという、多くの皆さんがこういった戸建て住宅を近隣の町に建てられている。こういった定住人口がふえるというふうなことで、地元の中野地区のコミュニティーの形成に非常に大きく寄与しております。そしてまた、人口がふえるということは市民税がふえる、そして、こういった戸建て住宅がふえるということは、土地、建物の固定資産税がふえるというふうなことで税収増につながる。これらがひいては武雄市のにぎわいに、発展につながっていくというふうに思っております。

ぜひ今、回答期限も間近に迫っているというふうなことでございますので、ここは廃止ではなくて武雄市が譲渡を受けるということを今回、決断をしていただきたい、購入をしていただきたい。恐らく金額的には以前の話では5,000万円ぐらいの譲渡価格だったというふうに思っております。今、和田住宅をつくっておりますけれども、ここを新しくつくるとなると8億円ぐらいかけておるんですね。そういう意味からすれば、非常に新しくて安い。ぜひこういう意味からも購入の決断をするべきだと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう国はでたらめですね。もう本当に、これ平成19年のときに雇用促進住宅を当時の閣議決定でいろんな批判があったじゃないですか、シロアリ官僚の。手放さんばいかんということになったときに、平成19年にありました。それで意向どうしますかと聞いた後に、またどさくさですよ。どさくさ。なおかつ今度は、内々ですけれども、議員が御指摘あったように5,000万円です。どうでしょうか。5,000万円高過ぎ。エレベーターがない、しかも新築と違って、もうこれもやっぱりがたのきとうですもんね。ということ考えたときに、今値下げの交渉を必死こいてやっています。値下げの交渉。だって、この5,000万円市民負担やけんですね。ですので、微力ながらやっています。

それで、これはさきの1年前の3月の市議会一般質問で山口良広議員にお答えしたとおり、私たちはこれは購入をしたいと思っております。諸条件を整えた上で購入をする。そして、その上で我々とすればいろんな課題もあることはあるわけですね、エレベーターの問題とかありますけれども、それはちょっと置いて、これをぜひ企業誘致の切り札であったりとか、

新たなコミュニティーの形成であったりとか、そういうものに使っていきたい。ですので、これはまだ私の希望にすぎませんし、庁内の意思集約を図っていませんけれども、これを一般の例えば、和田住宅のような市営住宅とは趣を異にしたいということは思っています。一般の市営住宅の延長ではなくして、先ほどありましたように、これは市内の企業の皆さんたちもおっしゃっているんですよ、企業誘致で来られた。ですので、議員が、御指摘があったように、新たなコミュニティーですよ、そういったもの。これは雇用促進住宅そのものもともと若い家庭をいわゆる対象にしているものもありますので、そういった意味で、ちょっと今の市営住宅とは趣を異にする。

それともう1つは、牟田議員からも御質問を賜りましたけれども、太陽光村とうまく連動させていきたいなということも思っています。だから、これは新たな形での雇用促進じゃなくて、定住促進ですよ、この切り札に使ってまいりたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

よろしく願いしておきたいと思えます。

それでは次に、コミュニティFMについて質問をさせていただきたいというふうに思います。

このコミュニティFMについては、平成3年に開局が認められております。VHFの76メガヘルツから90メガヘルツ対応を使った超短波のFMラジオでありますけれども、全国で大体243カ所ほど今開局運営をされているというふうに伺っております。このコミュニティFMがこれまでいろんなところで活躍をしておりますけれども、まず災害に非常に貢献をしております。平成7年の阪神・淡路大震災、このときですね、これを皮切りに16年の新潟中越沖地震、このときには大体通常は20ワットなんですけれども、50ワットまで増力をしていただいて、朝7時から夜の8時まで3カ月間ですね、この地震の情報を流し続けたと。それから、19年には中越沖地震、このときも1カ月、それから22年ですね、これは鹿児島県の奄美豪雨でありますけれども、このときは携帯電話が遮断され道路が寸断したということで、このFMで情報発信、安否確認をしたと。それから、昨年（2011年）の東日本大震災、このときには150ワットまで増強して市役所のほうに仮設住宅をつくって報道した。サイマル放送といってこれは同時並行放送ですね、TOKYO FMとか、ニッポン放送とか、そういったキー各局とつないで同時に情報を発信する、そういったこともやられております。

これがコミュニティFMの防災ラジオです。これは1万円近くするんですけれども、これのメリットは、災害情報の電波を局のほうから飛ばせば、もと電源を入れていなくても自動的に電源が入って情報を発信してくれるというつわものであります。これじゃなくても家庭にある小さなラジオでも聞けますし、自動車の中でも聞くことができますね。これを武

雄市内に置きかえると、例えば、こういった消防の火災情報の発信ですね、それから毎年発生しております豪雨災害、これは赤穂山ですね、4年ぐらい前に道路が崩壊をしましたけれども、こういった道路情報とか避難情報、こういったものに使えるわけでありまして。

それともう1つ、2点目は、地域のイベントの案内というふうなことで、これは昨年からセリタ建設が柏岳の荒廃した森をボランティアで再生活動をやられております。そのときの1こまなんですけど、こういった地域のすばらしいイベントを案内したり、現地から中継をすることもできます。市としては、春に飛龍窯の灯ろう祭りをやったり、あるいは秋には物産まつりをやったり、そしてまた、きょうも一般質問があつておりますけれども、市議会の状況を生中継する、こういったさまざまなやり方ができると。

それともう1つは、市民の皆さんが実際パーソナリティーとなって、こういったスタジオに来ていろんなトークをしていただく。そしてまた、娯楽という意味では音楽ですね、東京のミュージックバードのほうから音楽番組を配信していただいて、こちらの装置から流していくと、そういったことができるんですね。この防災という観点、それから市政の情報、そして地域との密着、あるいは娯楽、こういった観点からこのコミュニティFMについては、武雄市もバックアップをしてやっていく必要があるんじゃないかというふうに考えておりますけれども、ぜひこのFM武雄を目指してやっていただきたいというふうに思いますけれども、この点についてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとまずネガティブな話からしますね。これ初期投資に3,000万円以上かかるんですね。3,000万円から4,000万円かかるということ。それと年間維持費に、いろんなところを調べてみると1,000万円はかかるわけですね。これに対する国の補助というのは今のところありません。先般、総務省に対して、直接、政策統括官に対して、もし、コミュニティFMをやる場合についてはきちんと補助金を下さいということを申し上げたんですけど、渋ちんでした。

その中で、1つきょう船ノ原の区長さんがお見えになっていて、よくお話、御指導をいただきますけれども、防災無線、これは国の補助金を十二分に活用して、特にあの周辺部に敷設をしたところなんですけど、やっぱりどういうことが起きたかというぎ、向きによって聞こえたり聞こえんやったい、あるいは、区長さんね、今家が二重サッシになって、特に夏暑いときとか、寒いときというのは、お一人でお住まいの、防犯もありますので、年配の方々がなかなか聞こえんということで、防災無線というのはやっぱり限界のあるわけですね。ですので、1つやっぱり考えられるのは、防災とか安全・安心を守るのは市の最大の責務であります。なかんづく私の最大の責務でありますので、これを切り口として有事の際には防災

災害情報を防災無線とともに流すということが大事。そして、これは私が言うまでもなく、さきの東日本大震災で、これは山口昌宏議員からも聞きましたけれども、ちゃんとラジオを聞いている地区というのは非常に——これ言葉が適切かどうかはちょっとわかりませんが、生き残った率が高いということ。これは地域の方々も伺いましたけれども、そういった中でラジオをやっばりですね、コミュニケーションもそうなんですけれども、実際何かあったときにみんなが頼るのはフェイスブックじゃないんですね。インターネットではない、あるいはテレビはちょっとあるかもしれないけど、やっぱりラジオなんですね。ラジオは屋外でも聞けます。車の中でも聞けます。そういった意味で、ラジオをきちんと見直す必要があるだろうと思っています。ですので、今、地域発信とすればフェイスブック、月間で300万人以上の方々をごらんになっていきますけれども、それでも市内を見渡したときに、やっぱり1割いっとらんですもんね。上田議員さんね。ですので、このラジオというものはぜひ私としてはやりたいと思っています。

これは多くの方々をごらんになっておりますので、今後の私の思いだけを申し上げて答弁を終わらせてもらいたいんですけれども、これね、行政が100%運営することはしません。また非効率、不効率になります。ですので、これはあくまでも民間主体の企業体が行っていただくということで、ぜひ、これやりたいという企業の方々、団体、これNPOでも構いませんけれども、ぜひ私どものほうにやりたいという申し出をしていただきたいと思っています。そして、これについては初期投資が多分にかかりますので、この部分については、ほぼ全額出資をしたい。これ議会の承認が要りますけれども、議会がオーケーということになれば、それは最初の部分については——ちょっとにらまれていきますけれども、全額出資をさせていただきたいと思っていて、あとの運営費については、あるいは人件費を含む運営費については、これは原則その受けた企業体が、例えば、広告をとりに行くとか、さまざまな資金調達をするとか、あるいは補助金をとりに行くとか、それはぜひお願いをしたい。それは原理原則だと思いますので、そういった形で、これ手続が半年以上かかるんですよ、総務省の認可に半年以上かかりますので、これをもってね、異例かもしれませんが、申し入れをぜひしていただきたいというふうに思っております。

その中で、長くなりましたけれども、私、2カ月ほど前に京丹後市というところに行きました。京都府の京丹後市。ここは武雄市の面積の2.8倍あります。ここはコミュニティFMが非常に盛んなところで、やっぱりですね、そこはケーブルテレビもありますけれども、どっちかというコミュニティFMも聞きよんさるわけですよ。聞きよんさるですもんね。そいぎ何ば聞きよんさるかというぎ、やっぱりあいですもんね、市民のトークなんです。そいけん、これはお役所FMにしちゃだめです。それと、私がたまたま聞きよったとき、消防団長の出とんさったですもんね。出とんさったですよ。そいぎ物すぐく身近に、こういうふうに、何かな、消防活動があるてなっぎ、やっぱり親近感が出てくるですもんね。それは

消防団長より末藤議員さんのほうが、団長のほうが美声でしたよ。ですので、そういうことでぜひそういう地域活動をされている方々にもお出になっていただいて、さらに市民と近くなると、市民の中に入っていくと、そういうツールになればいいなと思っております。

これは、きょう佐賀新聞さんも朝日新聞さんもお見えになっていますので、記事になると思いますので、ぜひその記事を見て、これぜひやりたいという方々はお願いをしたいと、このように思います。できれば、来年の4月1日から開局ができればいいなと思っております。スピードは最大の付加価値。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。

やっぱり行政の防災無線だけに頼ってじゃだめなんですよ。二重三重の仕掛けをやっぱりして情報を流していく、こういったことが必要だというふうに思いますし、このFMは電気がなくても発電機さえここにあれば、ここからも発信することができる、あとは受け手側はラジオですから、どこが電気が喪失してもここにさえあればできる。最悪の場合、鉄塔のところに電源があれば、そこからも発信できるというふうなことであります。そういうことでぜひ前向きに進めていただきたいというふうに思っております。

それでは次に、高橋駅周辺整備ですね、こちらに移りたいと思います。

この高橋駅につきましては、これまでいろいろと要望をさせていただきました。この駅の前送迎ゾーン、駐車スペース、これを2倍の広さに拡張していただいて、アスファルト舗装していただいた、非常に利用者の皆さんからは感謝をいただいております。そしてまた、この左手には駐輪場がございますけれども、その盗難防止策もやっていただいた。防犯カメラの設置についても、今準備をさせていただいているというふうなことであります。これも石橋幸治部長さんを初め、田中課長さん、一生懸命JR、あるいは武雄警察と協議をさせていただいて進めていただいた結果だというふうに感謝をしております。

それで、第3段のお願いでありますけれども、4月27日やったですかね、朝日町の老人クラブ総会、小野会長さんのところの総会がございまして、そちらのほうに出席をさせていただいたんですけれども、会員の皆さんから要望があったのは、ここの階段の高さが非常に高いというふうなことで、高齢者の皆さんで足腰が悪い方、荷物を持って上がるのも非常に厳しいというふうなことで、武雄駅のようにやってほしいという要望でありました。現状の階段の1段当たりの高さが21センチなんです。奥行きは非常にないということで、傾斜角が非常にあるんですね。そういうことで、県の基準からいくと、これは県の福祉まちづくり条例、この条例からいくと16センチ以下となっています。これは随分前に建設されたものでありますから5センチ差があるわけですね。非常にこの差は大きいというふうに思います。そ

の対応策として、ぜひここに高橋駅にもスロープを設置していただきたいというふうに思っております。この駅の左手のほうが若干スペースがございますので、こちらのほうを改修していただいて、ぜひスロープ設置に向けて対応していただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

議員御指摘のとおり、高橋駅は階段数が5段で、地面からの高さでいくと90センチの高低差があります。したがって、非常に健常者でもちょっと注意せにゃいかんというようなところがございます。これにつきましては早速要望ございましたので、JR九州さんに申し入れをしております。施設自体が底地、それから建物も全部JRさんの持ち物でございますので、できるだけ要望にこたえていただくようにということで、現在、要望書の提出を行いました。その回答はまだいただいておりませんが、前回も対応していただいた経緯がございますので、今回も期待しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

石橋部長さん、よろしくお願ひいたします。

それでは続いて、小・中学校の室内環境の整備ということで質問をさせていただきます。

ことしの気象庁が発表している夏の気温予想、これによると全国的に高温となるということで、暑い夏が予想をされておるところでございます。この小・中学校において、この猛暑対策、どういったことを今やられているのかお伺いをしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

学校の猛暑対策ということでよろしいでしょうか。

学校でも夏につきましては軽装をいたしております。我々もクールビズということで取り組んでおりますけれども、学校ではクールスタディーということで軽装に取り組んでおるところです。

それから、グリーンカーテンですね、市役所でも先週ぐらいから始めましたけれども、緑のカーテンの取り組みを行っております。そのほか学校では、学校の建てかえの際には現在、陸屋根の学校については、かわら屋根にかえるとか、そういった取り組みをやっているところですので、夏は30度を超えるというのが大変多くなっておりますので、そういった取り組みを行っているというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

これは8月の最高気温の比較をしたものでございます。2010年と約30年前、樋渡市長が武雄中学校に上がられるころだというふうに思いますけれども、そのときの気温をちょっと比較してみたものであります。現在が35度を超える猛暑日、これが31日間で、何と21日ほど数えたらあります。非常に高温化が進んでいる。そして、市長さんが中学生のころを見ますと、35度を超える猛暑日が1、2、3、4日ほどなんですね。これ一年一年しかとらまえておりませんが、全般的に高温化が進んでいる。これを単純平均しますと、30年前が31.6度、現在が34.7度ということで、約3度気温上昇をしております。そういう状況の中で、非常に小・中学生も過酷な状況に今あるわけでありまして。その対策として、扇風機もいいんですけれども、屋根がえもいいんですけれども、ぜひ普通教室への冷暖房完備をお願いしたい。これはやっぱりもう一般の家庭もほとんど普及をしつつあるんですね。そして、公共施設もほとんどが入っている。入っていないのがこの学生のおる普通教室ですよ。やはりこういう時代に合わないことはやめていただきたいなというふうに思います。これを導入することによって、やはり授業成果の向上に必ず結びつくというふうに思っております。今ではやはり暑いと下敷きであおいだり、タオルで汗をふいたり、居眠りをしたりということで注意をしなければならないというふうな現状らしいです。体調管理も非常に容易になってまいります。熱中症対策、そして冬は風邪の対策ですね。

この写真は武雄青陵中学校なんですけれども、これは普通教室に設置がされておまして、これは以前からなんですけれども、利用もされております。同じ市内の中学校の中でですね、ぜひ不公平感がないように、市内の中学校、小学校にも設置をするべきだというふうに思いますけれども、市長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと切りかえていただけますかね。（モニター使用）これうちの職員ですので、はい。これはきょうの武雄中ですね、きょう午前9時過ぎですかね、9時過ぎの武雄中なんです。新しくなった武雄中です。これちょっと抜き打ちで入ったんですけど、もう既に先ほど議員から御指摘があったように——これね、暑くて居眠りできないそうですよ。いや、それほど暑い。で、こういう感じですよ。非常に、窓が小さいというのもありますけれども、どの学校も、先般、黒岩議員から御指摘があった北方中にも参りましたし、山口昌宏議員から御指摘があって川登の中学校も参りましたけれども、もうすべてがやっぱり暑い。

ということで、全教室というのはちょっとやっぱりまだ無理なんです。うちは財政状況

が非常によくないし、まだ借金が300億円ぐらい残っていますから、100億円は返しましたけどね。ですが、先般、教育長と私で武雄中学校に参りました。武雄中学校は独特の構造になっていて、3年生が1階なんです。2年生が2階というふうになっておりまして、特に3年生のところは暑い。なぜかというと、1階が管理棟で、もう風が遮断されているわけですね。教育長、御存じだと思いますけど、一緒に行きましたので。3階に行くと体感温度が非常に涼しい。それは何かというと風が流れるから。ですので、地面に近くて管理棟で遮断されているということからして——それでたまたま回っていたときに、ある中学校で、冷房ば入れてくださいと直談判されましたもんね、何人かから。冷房ば入れておくんさいと。そがんせんぎんた青陵に勝てません。勉強する環境ばつくるには市長さんの仕事じゃないでしょうかということ直談判されました。そりゃそうだと思います。あがん暑かところですね、まあ、ちょっとやっぱり勉強もう無理です。無理。

私たちはやっぱり子どもが、しっかり勉強で——もう環境変わってっすもんね。今家に帰ったら、寝るときでも——この辺の人たちは、寝るときもクーラーつけとらんで言うですよ、もう原始人です。ですが、多くの子どもたちは寝るときですらクーラーが当たり前になっていることをかんがみたときに、やっぱり子ども目線に立つことが大事だろうという教育長の判断から、我々は全中学校に——山内中はちょっと今改修中ですので、これはちょっと申しわけないけど除いて、全中学校の3年生の教室に冷房を入れることに決めました。ですので、これは私たちが決めただけですので、これについては6月議会で追加議案として議案を追加上程いたしたいと、このように思って——この答弁でよかね。（発言する者あり）ですので、うんと言っていますので、追加議案を上程したいと思っています。まず3年生から。要するに、3年生はやっぱり勉強に集中せんばいかんということ。本当ならば1年生、2年生、3年生とやりたいところなんですけれども、これは先ほど申し上げたように、非常に厳しいと、財政状況が厳しいですので。ただし、何もできないじゃなくて、できない理由よりできる理由ということで、まず、3年生の普通クラスですかね、普通教室に入れていきたいと、このように考えております。ぜひ議会の御理解と御協力をお願いしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。

せんて言いんさあぎんた、また言おうかなと思っておりましてけれども、本当にこれから6月、7月、8月、9月と猛暑日が控えております。ぜひこの6月議会で予算化をしていただいて実施をしていただきたいというふうに思っております。

それともう1点、お聞きしたいんですけれども、あと1年生、2年生、それから小学生に

については、これもまた順次計画をするということによろしいですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ないそでは振れませんので、まず3年生を見てね、そこで広げる必要があれば広げる。それと、これ税収の問題にもなるんですよ。ですので、そういった入りを見ながら、できることなら子どもたちの教育環境に傾斜配分をしていきたいと、このように思っております。すなわち、我々がどれだけ収入を上げられるかということを見ながら、そして、今般3年生の普通教室に全部入れますので、そういう入れたものを検証しながら、それは何というんですかね、相談をしていきたいと、議会によく相談をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

私たちも行財政改革に全面的に協力をしていきたいというふうに思っております。青陵中学校が入っておりますので、まず1年生、2年生のところまでは、ぜひ不公平感がないような形で計画を立てて、早急にやっていただきたいというふうに要望をしておきたいというふうに思います。

それでは次に、庁舎問題ですね。これについては何度となく取り上げさせていただいておりますけれども、これまでの経過をたどりますと、市の庁舎が46年を経過しているというふうなことで耐震診断を行ったところ、基準値の0.69に対して、1階から4階までの東西南北方向、すべて基準値が下回ったと。特に2階の市民の皆さんが集われるところですね、ここが基準値の半分以下ということで地震が起きた際には非常に危険な状態にあるということで今不適合が指摘をされております。

それとは別に、諸問題としては新幹線用地としてひっかかってくると。駐車場が86台分、そしてまちづくり部ですね、これは下水道課とか建設課、環境課、あと都市計画ですか、こういった部署がかかってしまう。そしてまた、利便性が非常に今の庁舎悪いですね。玄関から入ったら、1階が中央部が機械室、2階は市民フロア、エレベーターも2階までしかない。それから、築46年ということで老朽化をしている。ちょっとした雨が降れば地下水が流入をして、玄関先からホースでポンプアップする。それから耐用年数、これはコンクリートの耐用年数でありますけれども、一般的には50年、最長でも60年と言われております。もうコンクリート自体の耐用年数も来るわけですね。そういう意味から私は耐震改修だけでは今後不十分だということで、ぜひ27年度までの合併特例債を使って、将来のために建てかえをお願いしたいということによっておりました。

さきの議会では耐震工事をした場合の結果を御報告いただいたところであります。業務ス

ペースが10%、500平米減ると。それから、改修費用ですね、最低でも16億円かかるというふうなお話をいただいたわけでありまして。その後、3月議会以降、庁内でどのような議論がされているのか。そしてまた、新しく建てかえるときにはどうなるのか。その辺の議論がされているのかどうかお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田副市長

○前田副市長〔登壇〕

私のほうから答弁したいと思います。さきの3月議会も若干答弁しましたが、今庁内のほうで部長を中心とした委員会、それから、課長、係長の関係部署から成る幹事会で議論をしております。3月議会については、さっきありましたように、耐震の診断の結果、特に2階部分、全体的に耐震の基準が半分ぐらいになっていますが、耐震の補強をした場合どうなるかということで、先ほどありましたように16億円程度かかるということで報告をしております。

その後、市長のほうがいつも言っておりますように、今回の庁舎問題については、さっきの耐震の補強をするか、あるいは現地での建てかえをするのか、あるいはもう1つは、新しい場所に新築をするのか、その3つの方法がありますので、今現在さっき言いましたように、庁内の幹事会、委員会のほうで議論をしておりますので、ちょうど今回の補正でお願いしていますが、7月以降ですね、市民を入れた市民会議の意見、それから議会のほうで設置されます特別委員会等で協議をいただきながら、早急に結論を出したいということで、3つの方法いずれかになると思いますが、どちらでも合併特例債の期限が27年度まででございますので、それには間に合うような対策を今後講じていきたいというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとスケジュールに対して副市長の答弁に補足をいたします。

これはさきに何度も答弁してはいますが、この財源の手当というのは合併特例債を中心に考えておる次第であります。しかしながら、この合併特例債の5年延長法案がまだ国会によって通っておりません。ですので、これひよっとすっげ解散になるかもしれんわけですね。そうなったときに、合併特例債の5年延長で、ちょっと実は内々考えておったわけですよ。考えておったのが、これ切れたら使われんごとなあわけですもんね。ですので、合併特例債の有効、これちゃんとまた総務省等とも詰めますけれども、その有効期間の中にするということになったときに、非常に急がなきゃいけないと。本当はこれ物すごく議論に議論を重ねるべき話なんです。もちろん議論に議論を重ねるべき話なんですけれども、その期間というのが国のていたらくの責任で、こういうところまで来るんですよ、民主党の政権の。

ですので、そういうことからして、ちょっとやっぱりスケジュールについては、我々は緊張感を持ってしていかなきゃいけないということですので、ぜひ先ほど副市長からも答弁いたしましたとおり、議会でも並行して活発な御議論を賜ればありがたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

議会のほうでも特別委員会の設置の方向で今後準備をしていくわけでありましてけれども、この方針決定、いつまでに出されるのか。ちょっと先ほど言われたかわかりませんが、いつまでに方針を決めなければならないのか。そこをちょっとはっきり答弁いただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

合併特例債の関係がありますので、今年度中には3案のうちの1案を具体的に詰める必要があるだろうと思っておりますし、合併特例債の期限の関係で8月には少なくとも1から3案のうちどれにするかということの内々というか、草案ぐらいは、そこは方向性として出しておかないと、とても今年度内の、もうこれは結構具体的なところになると思いますので、我々としてはそういうタイムスケジュールを持っています。もう本当に正式にこうやっていくんだということに関しては、繰り返しますけれども、合併特例債の期限延長の関係がありますので、今年度いっぱい3案のうちのいずれかを議会と市民の皆さんとよく詰めた上で成案として固めるということになってまいります。ただし、その草案の部分については、できれば、これ私の希望ですけれども、合併特例債の関係がありますので、8月末までぐらいには、大体こんな感じかなということを出せばいいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

8月までというと、あと2カ月ちょっとしかなかわけですね。そういう状況の中で今示されているのはこの耐震をした場合、その後のやはり改修とか移転とか、そういったものの情報が我々議会側にもなかわけですね。そういう状況の中ではやはりなかなか協議も進まない。ぜひそういったところを早くオープンにして、議会は議会で委員会を立ち上げますので、情報を提供していただきたいというふうに思っております。

それでは次に、図書館について移りたいと思います。

図書館のサービス向上というふうなことで、樋渡市長のほう9つの市民サービスが向上す

るというふうなことでおっしゃられております。今議会でいろんな議員さんが質問された中で大体のことがわかってまいりました。またこの後、黒岩委員長さんも深く質問されるということでございますので、特に深入りはしませんけれども、市長として、このサービス向上について追加する項目がありましたら、答弁をいただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これに追加するものとして、さきに上田雄一議員にもお答えしていますけれども、例えば、郵便ポストで返却ができるということについては、新たなものとして10個目の価値かなということはあると思っておりますし、さらに加えるとするならば、どれだけ目標があるかということについて申し述べたいと思うんですけれども、今入館者数が平成24年3月31日現在で25万5,828人なんです、貸出冊数が35万2,312冊です。目標とする数字なんですけれども、入館者数が40万人、ですと60%増、貸出冊数が56万冊ということを目指してまいりたいと思っております。多分これを越すとは思いますが、今CCCと話をしているのはこういう目標です。したがって、このためにはどういうことをするのかといったことについては、25番平野議員さんは伊万里市の図書館、これすばらしい図書館ですけれども、でも調べてみると、やっぱりあれなんです、お役所なんです。朝10時からもう6時には閉まっちゃう。そいで見ていたら、これインターネットに載っていますので、これ批判じゃないですよ、月曜日は大体閉まっているということなんで、我々はさらにそれを上回る市民価値の高い市民サービスの向上を目指して、この図書館を文化の中核施設としてとらえていますので、そういった開館時間であるとか、魅力ある——これ選書委員会選びますけれども、本の充実であるとか、そういったことをさまざまなことをして、そしてアンケートを大規模にとりますので、そういったことを踏まえながら、魅力ある図書館を超える図書館というものを市民の皆さんとともに、議会の皆さんとともに、そういうものをつくっていきたくて。

今武雄はチャンスなんです。あらゆる注目が今集まっております。これは山口昌宏議員からもありましたように、名声か悪声は別にしても、いろんなところにやっぱり武雄と言えばあの図書館ねということをおっしゃいます。ですので、その注目を形に変えていきたい、あるいは市民の夢を形にするのが政治の仕事であります。ですので、つまらん足引っ張りに、もう私も無視して頑張っていきたい。特定の人を言っているわけじゃないですよ。頑張りたい、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

入館者で40万人までふやすということですね。それから、貸出冊数が56万冊ですか、そこ

までねらいたいというふうな答弁でございました。

この図書館の開館時間ですね、今10時から夕方の6時にはもう閉まるというふうなことで、市長の提案では9時から夜の9時までオープンをする、それも365日やるんだということで、非常に利用時間がふえる。従来からすれば約2倍以上に利用チャンスがふえることとなります。この利用時間の拡大だけ見ても、この民間活力を導入する意味合いはあります。これはやはり市民病院の民営化と全く考え方が一緒なんですね。ぜひ我々は市民病院のように全面的にバックアップをしまいいりますので、来年の4月オープンに向けて頑張っていたきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、何か平野議員さんもアンケートに期待しているということですので、これは賛成だと私は思っておって、非常に温かいお気持ちをいただいたというふうに思っておるんですね。

その上で、ちょっと私、黒岩幸雄 I T 特別委員長からしかられました。何で1億4,500万円を基軸にするんだということを怒られて、それ何ですか、黒岩さんと聞いたら、要はその365日開いて4時間ふえるわけですよ。これ吉川議員の資料を借用すると、利用チャンスが1.9倍、およそ2倍膨らむということにすると、これはその価値を乗せるべきじゃないかと。その価値と実際CCCに出す運営委託費の差額を言うべきじゃないかということの強い御指導を賜りましたので、それはそうだということですので、今後は市民の皆さんたちにもそういった説明をしまいいりたいと思います。

恐らくいろんな価値を加えると、1億4,500万円、これ人件費を含めいろんなのを含めると、恐らく最低でも1億8,000万円にはなるんですね。ですので、それは精査します。こちらのほうで黒岩委員長の御指摘に沿って整理をした上で、そういうことについていろんな説明をしまいいりたいと思っておりますし、こういうわかりやすい説明についてですね、我々やっぱり行政なんでなかなか難しいんですね。小難しく言ってしまいますので、議員皆さんの議会活動でぜひ、いろんなこれから集会とか開かれると思っておりますので、ぜひ図書館がこうなるんだよと、こういうふうにするにはどうすればいいかということを議会活動の一環として行っていただければありがたいと思っております。

これについては、私は全会一致で賛成ということ強く望んでおりますので、多分大丈夫だと思います。これほど私も頭を下げて申し上げておりますので、大丈夫だと思いますので、議会の総意の、何というんですかね、応援をぜひお願いしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

以上で一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、12番吉川議員の質問を終了させていただきます。